

I.「障害者一般就労移行チャレンジ事業」の全体像

1.「障害者一般就労移行チャレンジ事業」の目的	2
2.「障害者一般就労移行チャレンジ事業」の内容	3
3.「障害者一般就労移行チャレンジ事業」の推進体制	7
4.障害者一般就労移行チャレンジ事業検討委員会.....	9

Ⅰ.「障害者一般就労移行チャレンジ事業」の目的

本事業は 2019 年度に実施した「障害者一般就労移行チャレンジ事業」を継承したもので、その目的は、一般就労に対する意識が低い就労継続支援事業所の利用者とその家族の意識を高めることである。利用者と家族には、企業見学や体験実習の機会を通して、「一般就労という働き方」を知ってもらい、「働く」ことへの意欲向上をめざす。一方、支援者向けには研修を行い、「福祉から一般就労へ」という流れを促進する。

ただし、現在利用している事業所から直接、企業等へ移行（就職）することをめざしているわけではない。一般就労のための訓練を行う就労移行支援事業所の利用につなげるための、いわばファーストステップとして、本事業を位置付けている。

さらに、検討委員会としての目的は、個別ケースの「チャレンジ」のプロセスを分析することで、現行の就労支援システムや雇用施策の課題を抽出することにある。



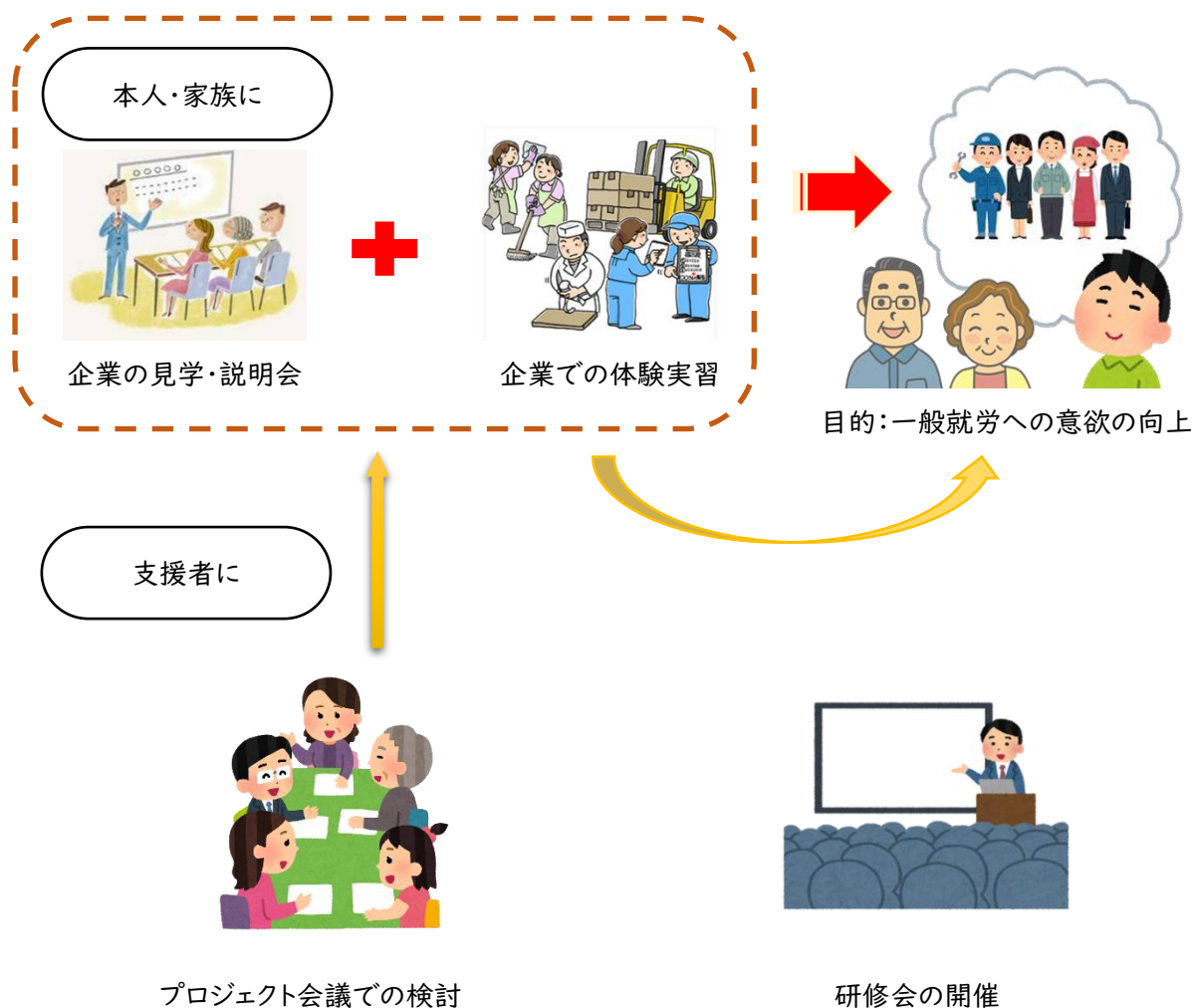
2. 「障害者一般就労移行チャレンジ事業」の内容

今年度の障害者一般就労移行チャレンジ事業は大きくは4つの内容からなる。

1つ目は企業に出向いて職場を見学し、仕事内容の説明を受ける「合同企業見学・説明会」、2つ目は職場体験のための実習である「チャレンジ実習」である。この2つの事業は、現在、就労継続支援B型事業を利用している者とその家族を主な対象にしている。そこで、両者を併せて、「B型事業所一般就労移行チャレンジ事業（B型チャレンジ事業）」と呼ぶ。

3つ目は、今年度新たに行った「やまぐち型 B 型チャレンジプログラム」である。これは、B 型チャレンジ事業の活性化のためのプログラム開発であり、就労継続支援 B 型事業を中心とする就労関係の事業所の職員が集まってプロジェクトチームを形成し、プログラムについて検討・試行した。

4つ目は、職員を対象とした研修会である。これは、本事業を周知するとともに、一般就労移行についての支援者の意識を高めることを目的とする。就労継続支援 B 型事業所に限定することなく、就労移行支援事業所、就労継続支援 A 型事業所等にも参加を呼び掛けた。



① 合同企業見学・説明会

就労継続支援B型事業所等の利用者とその家族、事業所職員が、企業を訪問し、職場見学と仕事内容の説明を受ける。一般的な就職合同説明会等との違いは、実際に現地に出向いて説明を受ける点である。実際に職場を見ることで「働く」ことをイメージし、一般就労への意欲・心構えを形成することがねらいである。

見学先の選定条件は、現在、既に障がい者を雇用している企業とした。当初、見学・説明会を県内の全圏域で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で引き受けてもらえる企業が少なく、下表の5圏域のみでの実施となった。また、参加者の選択肢を拡げる意図から、異なる業種や仕事内容の企業を組み合わせ複数見学できることをめざしたが、それは叶わなかった。

各回の参加者は下表のとおりだが、2か所に参加した事業所・参加者もいるため、実数としては13事業所26人(本人)である。

圏域	実施日	参加者			見学先	
		事業所数	本人 (人数)	支援員 (人数)	企業名	業種
岩国・柳井圏域	令和3年1月27日(水)	2	4	1	株式会社カフトT.P.C	製造業
	令和3年1月29日(金)	2	5	2	柳井化学工業株式会社	製造業
周南圏域	令和3年1月22日(金)	2	4	4	徳山積水工業株式会社	製造業
山口・防府圏域	令和3年1月15日(金)	2	5	5	山口県きらめきワークセンター	公務
	令和3年1月26日(火)	3	6	6	山口市ワークステーション	公務
宇部圏域	令和3年1月14日(木)	1	1	1	セントラル硝子株式会社	製造業
	令和3年1月19日(火)	1	1	1	社会福祉法人アスワン山荘	医療・福祉
萩・長門圏域	令和3年1月12日(火)	3	5	4	鶴惣工業株式会社	製造業
	令和3年2月2日(火)	3	5	5	美萩工芸株式会社	製造業

② B型事業所チャレンジ実習

チャレンジ実習は、いわゆる職場体験的な実習である。見学・説明会で訪問した企業のうちの1か所で、体験実習を行う。原則として3日間1日あたりの体験時間は3時間程度に設定する。実習中の仕事内容は、現に障がいのある社員等が行っている業務を中心に、企業に選定してもらう。

チャレンジ実習の一番の目的は「働く」ことのイメージ形成であり、当該企業に就職することを前提としていない。したがって、現在の求人の有無、通勤手段の確保等は特には考慮しない。そのことについては、実習前に、実習生(事業所)、企業の双方に十分に説明し、了解を得た。実習中はチャレンジ事業の調査員や事務局が帯同し、サポートすることとし、各事業所には実習先までの送迎を依頼した。

新型コロナウイルス感染症の影響で、チャレンジ実習は、見学・説明会を行った企業のうち、4圏域の5企業のみで行った。また、年度末等の企業側の事情で、1日あるいは2日のみ実施した企業もある。7事業所からのべ10名が参加。このうち2名は2か所で実習を行ったため、参加者の実数は8名である。

実習企業	実習期間・実習時間	参加者	主な業務内容
社会福祉法人アスワン山荘	令和3年2月24日(水)～26日(金) 13:00～16:00	1人	シーツ交換作業
株式会社美萩工芸	令和3年2月24日(水)～26日(金) 9:00～12:00	2人	段ボール組立て等の軽作業 製品の検品チェック
山口県きらめきワークセンター	令和3年3月1日(月)～3日(水) 9:00～12:00	2人	通送作業、シュレッダー 封入等の事務作業
株式会社カワトT. P. C.	令和3年3月2日(火) ※1日のみ 9:00～12:00	2人	製造過程の軽作業 梱包
山口市ワークステーション	令和3年3月8日(月)・9日(火) 9:00～12:00	3人	封入、パソコン入力等の事務作業 草刈り作業、清掃作業

③ やまぐち型 B 型チャレンジプログラム

B 型チャレンジ事業の活性化のためのプログラム開発であり、就労継続支援 B 型事業所を中心とする就労関係の事業所の職員が集まってプロジェクトチームを形成し、プログラムについて検討・試行した。

6月から開始したが、コロナ禍の影響で継続が困難になり、11月から再開した。前半はB型チャレンジ事業の活性化のための検討を行った。後半は、前半の協議のなかで発案された「PR 動画」の作成のための検討を行った。

日 程		参加者		会 場
月 日	時 間	委員	事務局	
《B型チャレンジ事業の活性化のための検討》				
令和2年6月3日（水）	19:00～21:00	12人	2人	特定非営利活動法人青空
令和2年6月17日（水）	19:00～21:00	12人	3人	特定非営利活動法人青空
令和2年7月1日（水）	19:00～21:00	12人	3人	特定非営利活動法人青空
令和2年7月15日（水）	19:00～21:00	12人	3人	特定非営利活動法人青空
《PR動画作成のための検討》				
令和2年11月19日（木）	19:00～20:00	7人	3人	社会福祉法人るりがくえん るりワークス
令和2年11月25日（水）	16:00～19:00	3人	1人	社会福祉法人ふしの学園 ふしのエコ事業所
令和2年12月1日（火）	19:00～20:00	6人	3人	社会福祉法人るりがくえん るりワークス

④「障害者一般就労移行チャレンジ事業」職員研修会

事業所の管理者や職員を対象に、一般就労への意欲の向上と、本事業の周知・広報を目的とした研修会を3回開催した。いずれもコロナ禍で参加者を制限した研修会であったが、パネルディスカッションやグループ討議の形式を取り入れることで、活発な意見交換が行うことが出来た。

(第1回)

日程	令和2年12月17日(木) 13:30~15:00
会場	公益財団法人周南地域地場産業振興センター 会議室1
テーマ	企業が求める人材 ～就職を支援するに当たって気になることはありませんか?～
形式	講義&パネルディスカッション
参加者	12事業所15名、周南企業部会・事務局 11名

(第2回)

日程	令和3年2月18日(木) 13:30~15:00
会場	スターピアくだまつ 会議室1・2
テーマ	障がい者の一般就労と雇用について
形式	講義&パネルディスカッション
参加者	5事業所5名、周南企業部会・事務局 14名

(第3回)

日程	令和3年3月22日(木) 13:30~16:00
会場	山口県教育会館 第1研修室
テーマ	「障害者一般就労移行チャレンジ事業」 これまでの取り組みとそこから見えてきた課題 そして、さらなる展開に向けて
形式	講義&グループ討議
参加者	10事業所11名、事務局・県・講師 6名

3. 「障害者一般就労移行チャレンジ事業」の推進体制

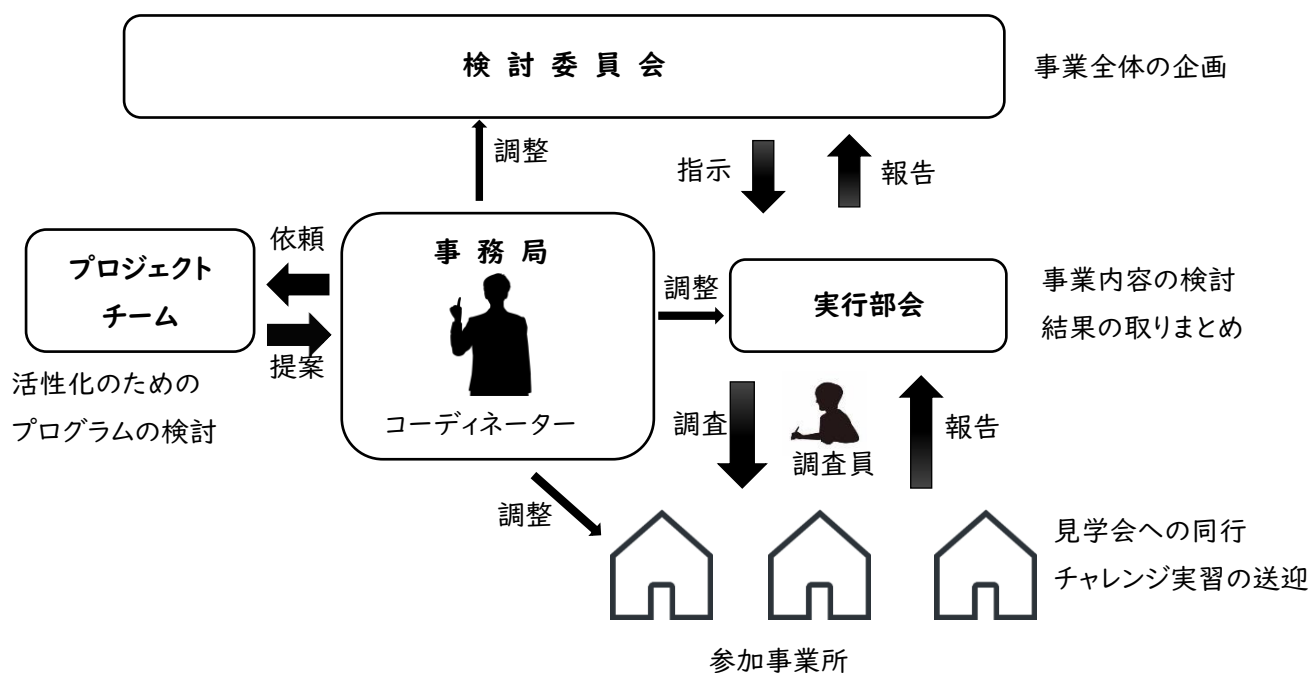
本事業は、事業全体の調整役である「移行支援コーディネーター」（事務局）を中心に、3つの組織体で行われた。コーディネーターは事業所の選定や参加者の募集、研修等の日程調整といった役割を担う。

「障害者一般就労移行チャレンジ事業検討委員会（以下、検討委員会とする）」は事業全体の企画と進行管理を担う。検討委員会は、就労継続支援B型事業所、就労移行支援事業所に加え、障害者職業センター等の就労支援機関、現に障害者を雇用している企業等、福祉・労働の両分野の関係機関から幅広く委員を選定した。今年度は、コロナ禍の影響で、3回すべてを紙面開催とした。

「B型チャレンジ事業実行部会（以下、実行部会とする）」は、見学・説明会やチャレンジ実習の具体的な事業内容を検討・実施するとともに、企業見学や体験実習に同行し、効果検証のための調査を担った。実行部会のメンバーは調査員の役割も担うため、就労支援（ジョブコーチ）の経験がある4名を選定した。

「プロジェクトチーム」は、「やまぐち型B型チャレンジプログラム」として、B型チャレンジ事業の活性化のためのプログラムの検討を行った。山口・防府圏域で、就労継続支援、就労移行支援、相談支援などの立場で障害者の就労支援に携わっている職員（管理者含む）13名で構成される。

企業見学や職場体験等に参加した事業所を「参加事業所」と呼んでいる。参加事業所の職員には、参加者の募集・調整のほか、見学・説明会では同行を、チャレンジ実習では送迎を依頼した。今年度の参加事業所は13事業所である。このうち、職場体験まで参加したのは7事業所である。



《参加事業所一覧》

圏 域	事 業 所 名	見学・概要説明会	体験実習
岩 国 圏 域	しらかば園	●	●
	第2しらかば園	●	●
柳 井 圏 域	ワークショップ白壁	●	
	ワークショップ未来	●	
周 南 圏 域	光あけぼの園	●	
	みなくるはうす下松	●	
山口・防府圏域	ステップあそかの園	●	
	るりワークス	●	●
	ふしのエコ事業所	●	●
宇部・小野田圏域	工房ときわ	●	●
萩 圏 域	なないろ	●	●
	ハローフレンズ	●	●

参考) 障害保健福祉圏域(8圏域)

圏 域	事 業 所 名
岩 国 圏 域	岩国市、和木町
柳 井 圏 域	柳井市、周防大島町、上関町、田布施町、平生町
周 南 圏 域	下松市、光市、周南市
山口・防府圏域	山口市、防府市
宇部・小野田圏域	宇部市、美祢市、山陽小野田市
下 関 圏 域	下関市
長 門 圏 域	長門市
萩 圏 域	萩市、阿武町

4. 障害者一般就労移行チャレンジ事業検討委員会

1) 障害者一般就労移行チャレンジ事業検討委員会名簿

機 関 名	氏 名	備 考
出光興産株式会社	堅田 海采	障害者雇用機構
特定非営利活動法人キセキ	徳本 武司	就労継続支援 B 型事業所
就労継続支援 B 型事業所あおぞら	山田 正寛	就労継続支援 B 型事業所
山口学芸大学	佐藤 真澄	学識経験者
社会福祉法人宇部市社会福祉協議会	有田 信二郎	障害者雇用関係機関
山口労働局 職業対策課	岡野 正明	障害者雇用関係機関
山口障害者職業センター	清家 慎太郎	障害者雇用関係機関
山口県労働政策課	河村 隆司	障害者雇用関係機関

2) 障害者一般就労移行チャレンジ事業検討委員会の開催状況

第1回障害者一般就労移行チャレンジ事業検討委員会（書面開催）

日時:令和2年12月10日（木）

議題:職員研修会、企業見学会、職場体験実習 進行状況と今後の取り組みについて

第2回障害者一般就労移行チャレンジ事業検討委員会（書面開催）

日時:令和3年2月5日（金）

議題:職員研修会、企業見学会、職場体験実習 進行状況と今後の取り組みについて

第1回検討員会（書面開催）意見及びまとめ

第3回障害者一般就労移行チャレンジ事業検討委員会（書面開催）

日時:令和3年3月30日（火）

議題:事業報告